兵庫消防

発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人　岸　野　雅　信

令和三年度 兵庫県津波一斉避難訓練実施！！

避難訓練後、県職員からのお話しを聞く子供たち

おうち時間
家族で点検
火の始末

令和三年一一月五日「津波防災の日・世界津波の日」に「兵庫県津波一斉避難訓練」が県内（一五市三町）の津波浸水想定区域で一斉に実施され、県内三一三の施設において、県民一〇万人超が訓練へ参加しました。

神戸市内の大慈幼保連携型認定こども園では、子供たち約二〇〇名と職員約四〇名が訓練へ参加し、警察官や消防職団員の誘導のもと、近くの神戸市立摩耶兵庫高校へ避難しました。

県内で実施された訓練の詳細については、次のとおりです。

一　概要

○　令和三年一一月五日（金）午前一〇時から、南海トラフ地震及び日本海沿岸地域地震を想定した「津波一斉避難訓練」を実施。

○　訓練対象地域内で、緊急速報メールに対応している携帯電話をお持ちの方に対し、マナーモードであっても警報音が鳴り、避難を呼びかけるメールを送信。

○避難先をイメージする。コロナ禍ではあるが、避難先、避難経路の検討や確認を行うなど、災害時の避難行動等を改めて確認する。

二　実施対象地域

㈠　南海トラフ地震（最大クラスを対象）

ア　対象地域（一四市一町）
神戸市、尼崎市、西宮市、芦屋市、明石市、加古川市、高砂市、播磨町、姫路市、相生市、たつの市、赤穂市、洲本市、淡路市、南あわじ市

㈡　日本海沿岸地域地震（郷村断層帯・鳥取沖断層帯を対象）

ア　対象地域（一市二町）
豊岡市、香美町、新温泉町

㈢　訓練内容

㈠　シェイクアウト訓練
㈡　緊急速報メール一斉配信訓練
㈢　津波避難・安否確認訓練
㈣　防潮門扉閉鎖訓練
㈤　スピーカー搭載ドローンを活用した避難訓練

三　訓練にあたり

㈠　訓練前に、いざというときに速やかに避難行動がとれるように、「ひょうご防災ネット」スマホアプリから「マイ避難カード」を作成してみる。

㈡　津波が発生した場合の浸水範囲や深さを「兵庫県CGハザードマップ」で確認してみる。

※　浸水のおそれのあるエリアに施設がある場合は、何らかの訓練を行うこと。浸水想定区域外であっても、想定外の津波への対応や、他施設の救助・応援なども検討いただく機会とする。

園庭に集合！！

警察官の誘導のもと避難開始

※「兵庫県ＣＧハザードマップ」

※「ひょうご防災ネット」スマホアプリ

Android
Google Play で手に入れよう

iOS
App Store からダウンロード

第八六期初任教育 査閲及び卒業式を実施

第八六期初任教育のスローガン
「万里一空『必ず助けます』それを裏付ける努力を誰よりも」を胸に、「消防人」として新たな一歩を踏み出す！

（公財）兵庫県消防協会

九月二五日（土）、兵庫県消防学校にて第八六期初任教育査閲が執り行われました。

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、消防学校関係者と各消防本部関係者のみの出席となりましたが、一三一名の教育生達は、半年間厳しい訓練を積み重ね、その逞しく成長した姿を、余すところ無く披露しました。

また教育生達は、九月二八日（火）に卒業式を終え、それぞれの所属で現場の最前線に就き、「消防人」としての新たな一歩を踏み出しました。

第八六期初任教育のスローガンである「万里一空」、これは「目的、目標、やるべきことを見失わずに励む、努力し続ける」という意味を持つ四字熟語です。訓練を重ねるごとに人を助けることの難しさを実感するとともに、消防士の使命を強く感じた第八六期初任教育生たち。これからは訓練ではなく任務としての行動が求められますが、消防士として命を大切に、そして「万里一空」というスローガンを胸に、日々自己研鑽に励んでいただき、兵庫の「安全」と「安心」を守っていただきたいと思います。

卒業式の様子

第八六期初任教育スローガン

分列行進

一斉放水

消防機器取り扱い訓練

火災防ぎょ訓練

消防学校長訓示

救助訓練

救出救助訓練

学校長からの訓示を受ける教育生たち

第四〇回 全国消防殉職者慰霊祭挙行

(公財)兵庫県消防協会

慰霊祭会場

令和三年九月二八日（火）、ニッショーホール（東京都港区東新橋）において、第四〇回全国消防殉職者慰霊祭が挙行されました。

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の適用区域拡大や、適用期間の延長など、厳しい状況に鑑み、規模を大幅に縮小し全国からの参列は控えざるを得ない状況の中での挙行となりました。

式典では、内閣総理大臣、総務大臣の追悼のおことばを代理の方々からお伝えいただき、また衆議院議長と参議院議長から電報をいただくなど、厳かに滞りなく執り行われました。

慰霊碑

兵庫県消防協会Facebookへの投稿をお待ちしております！！

（公財）兵庫県消防協会

公益財団法人兵庫県消防協会では、県下消防団の活躍を広めるため、Facebookページを開設しております（令和元年一二月開設）。

協会として、行事やイベント、お知らせなど投稿しておりますが、各消防団の活動についても、積極的に投稿したいと考えております。

各消防団において、活動報告、行事等ございましたら、ぜひ当協会までご連絡をお願いします。

また、消防団員の皆様には是非、当協会ページのフォローをお願いします。

さらに、消防団員の皆様だけでなく、消防団の活躍を広く県民の方などへお届けできますよう、当協会ページや投稿記事をシェアしていただき、友達へ拡散していただけますようお願いします!!

FacebookページのURL
https://www.facebook.com/hyoshokyo
アクセスはこちらから　⇒

投稿内容例
兵庫県・消防協会主催の消防団関係行事、消防団PR、県下消防団の活動、消防団員向け各種制度の紹介　等々

突撃取材

秋の全国火災予防運動の実施

～消防庁予防課からのお知らせ～

実施期間

令和三年一一月九日（火）から一一月一五日（月）まで

目的

この運動は、火災が発生しやすい時季を迎えるに当たり、火災予防思想の一層の普及を図り、もって火災の発生を防止し、高齢者を中心とする死者の発生を減少させるとともに、財産の損失を防ぐことを目的とする。

令和三年度全国統一防火標語

『おうち時間　家族で点検　火の始末』

重点目標

㈠ 住宅防火対策の推進

㈡ 乾燥時及び強風時の火災発生防止対策の推進

㈢ 防火火災防止対策の推進

㈣ 特定防火対象物等における防火安全対策の徹底

㈤ 製品火災の発生防止に向けた取組の推進

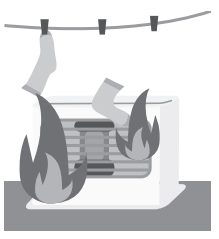
㈥ 多数の者が集合する催しに対する火災予防指導等の徹底

※ポスターについては一般財団法人日本防火・危機管理促進協会様よりデータ提供をいただきました。

住宅防火　いのちを守る一〇のポイント
～四つの習慣・六つの対策～

四つの習慣

- 寝たばこは絶対しない、させない。
- ストーブ周りに燃えやすいものを置かない。
- こんろを使うときは火のそばを離れない。
- コンセントはほこりを清掃し、不必要なプラグは抜く。



六つの対策

- 火災の発生を防ぐために、ストーブやこんろ等は安全装置の付いた機器を使用する。
- 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する。
- 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防炎品を使用する。
- 火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく。
- お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく。
- 防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う。

われら若手消防団員

～みんなで守る町の未来～

多可町消防団
第６分団　牧野部
団員
玉田　良太

大学卒業後、就職を機に地元の多可町へ戻ってきたのが平成三〇年四月のことでした。

町内で就職が決まった頃、村の消防団の部長から入団してほしいと勧誘を受けました。

入団する前は、地元で就職したとしても消防団には絶対入りたくないと思っていたので、うまく断ろうと思っていました。

しかし、他の団員の中にも同じような気持ちを持っている人もいる中で、自分だけ「ただ嫌だから、面倒くさそうだから」といった理由で入団しないのは良くないなと思い、入団しました。

入団すると、当初思い浮かべていたイメージとは全く違っていて、これなら頑張っていけると思いました。

入団してからは、有事に備えて機械点検や操作訓練などで集まることがありますし、村の行事に消防団として出役することもあります。

消防団という組織に所属することで、これまで知らなかったことを知る機会や新たな人との繋がりができたように思います。

多可町のような小さな町では、都市部に比べて近所付き合いも多く、「みんなで助け合う」精神が根強く残っているように思います。

少子高齢化が進むにつれ団員もますます減っていくと思われますが、年齢や性別を問わず、みんなで協力して町を守るという気持ちを忘れずに、これからも消防団での活動に尽力していきたいと思います。

消防団ピックアップ

Pick Up!

『災害に強い消防団を目指して』

相生市消防団

相生市は、播磨路に初夏を告げるペーロン祭で親しまれ、兵庫県の南西部に位置し、「いのち輝き　絆でひろがるあいのまち」が本市の将来像であります。また、瀬戸内海国立公園、西播丘陵県立自然公園など自然景観を活かした観光施設として、「万葉の岬」「羅漢の里」などや市の伝統行事であるペーロンをテーマにした「白龍城（ペーロンジョウ）」があり、天然温泉などが楽しめます。

相生市消防団は、現在、一五箇分団、団員定数は五二〇名となっており、装備については、ＣＤ―Ⅰ型消防ポンプ自動車一一台、小型ポンプ積載車四台を配備しております。

【各種研修】

消防団の研修として、毎年四月に新入団員を対象に消防団員としての心構えや礼式等の規律訓練、基礎技術訓練を実施しています。また、分団長以上の幹部に対しても定期的に危機管理講習等の研修を実施しています。

今年度におきましては、神戸地方気象台防災気象官を講師として招き「防災気象情報の活用について」と題してご講義頂き、避難に関する警戒レベルの導入や危険箇所の具体例などについて学びました。

【各種訓練】

訓練関係では、毎月の定期訓練、各分団間での連携訓練を実施しており、毎年二月下旬には消防署と合同で訓練を実施しています。

前年度におきましては、令和元年八月一日から伐木作業等における労働災害を防止するために安全対策が強化されたことを受け、講師を招いてチェーンソー取扱訓練を実施しました。基礎知識や操作方法など分かりやすく説明して頂き、実技訓練も実施しました。今後、多発化・激甚化する災害が発生し、チェーンソーを取り扱うことがあれば、非常に危険性が高いことを念頭に置きながら、安全かつ確実な活動を心掛けていきます。

【その他活動】

前述した以外にも、警戒活動として、春秋の火災予防運動及び年末警戒時に広報活動を実施しています。

また、市行事のペーロン祭・羅漢の里もみじ祭りには関係機関と連携しながら警備を実施しておりましたが、ここ2年間は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止が続いており、実施していません。

【防災訓練】

自主防災組織への訓練指導は消防団員の重要な役割であり、住民一人ひとりが防災に関する意識を高め、地域における防災体制の強化を目指しております。そのため、各連合自治会単位で行われる防災訓練では管轄地区の分団が積極的に参加し、煙体験や水バケツリレーなど消防団員が消防署員と連携を取りながら指導を行っています。

【消防出初式】

相生市の消防出初式は、毎年一月の第二日曜日に開催しています。車両行進や一斉放水などを行い、住民の火災予防に対する意識を醸成し、火災予防思想の普及に努めています。

今年の消防出初式は、新型コロナウイルス感染拡大により通常開催は困難な状況であり、規模を縮小し、式典のみの開催となりました。

【最後に】

まだまだコロナ禍において先行きが不透明ですが、感染防止を徹底しながら訓練や防災指導を行い、地域住民の中心的な存在として密接な関係を築き上げていきます。

「自らの地域は自らで守る」という精神に基づき、地域防災の強化を図り、災害に強い消防団を目指して、いざ出動。

防災気象研修

チェーンソー取扱訓練

防災訓練　水バケツリレー

『地域に根ざす消防団』

神河町消防団

令和三年度実施　訓練風景

神河町は、兵庫県のほぼ中央に位置するハート型のまちです。面積の八割を山林が占めており千町ケ峰を筆頭に、千ケ峰・暁晴山など一〇〇〇メートル級の山々に囲まれています。

峰山・砥峰高原は関西地方でも有数の高原地帯となっており、特に砥峰高原の一面にススキが広がる風景は九月下旬から一一月上旬に見頃を迎えます。また、一二月になると日本で一番新しいスキー場「峰山高原リゾートホワイトピーク」がオープンします。

神河町消防団は、平成一七年一一月七日に神崎町と大河内町が合併し神河町が誕生し、現在、本団と七分団二八部で構成され、団員数五七七名（令和三年四月一日現在）、機動力は消防ポンプ自動車一五台、小型動力ポンプ積載車一六台を配備して有時に備えています。

常備消防の署所がない当町において、「自分たちの町は自分たちで守る」という郷土愛護の精神と「町民の生命・財産を守る」という使命感で、火災などをはじめとする様々な災害から地域の安心・安全を守るために活動しています。

定期的な送水訓練、ポンプ性能テスト等を実施して、いつ発生するか分らない災害に対し速やかに活動ができるような体制を整えており、昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響で、思うように活動ができない状況ですが、例年であれば、春先には、消防初出式や消防操法訓練大会、新入団員・幹部教育訓練、秋には、火災予防運動期間中に防火パレード、年末には、特別警戒、この他にも年間を通じて多くの取り組みを行っています。

一方で、年々消防団員数が減少してきており、地元に残る若い人たちが少なくなったことや、少子高齢化が問題となっています。このような対策として、組織改編や定年延長など対策を講じながら団員確保に努めています。

近年は、火災の消火活動のみならず、地震や異常気象による風水害等、避難誘導、災害防御活動など、消防団に求められる任務は多種多様になってきています。このような有事に備え、本部役員を中心とし、日頃の訓練を通じ、平時から、有事出動を想定し、団員の安全第一と、安全確認・安全確保の大切さを求めています。

神河町消防団は、住民の安心安全を守り、地域防災力の強化のために、地域防災のリーダーとして地域に根ざす消防団を目指しています。

令和二年度実施　新入団幹部教育訓練

令和三年度実施　初出式

わが町の団長さん

「まちを守り続ける使命の継承と新たな挑戦」

伊丹市消防団
久保　善一

伊丹市は、県の南東、猪名川と武庫川に挟まれたなだらかな丘陵地にあります。

市の面積は二五平方キロメートル、人口は一九万八千余人を数え、阪神間の中核都市であります。

市の東部には大阪国際空港があり、便利な交通アクセスを生かして先端技術産業が多数立地しています。

また、潤いと安らぎを提供する植木産業も盛んで、江戸時代の酒蔵業や俳諧文学の栄えた地としての古き良き伝統と文化が息づくまちです。

久保団長は、消防団員として活動する父親の背中を見て育ち、同じように「自らの地域は自らで守る」という使命を果たしていきたいという強い気持ちから、地元の分団に入団されました。

令和三年四月、第五代消防団長に就任され、若い人材の発掘、女性や学生といった多様な人材の登用など、次世代を担う人材の育成強化に取り組むとともに、地域密着を心掛け、様々な住民ニーズに応える多彩な消防団活動を実践されています。

また、今なお日本中に猛威をふるう新型コロナウイルス感染症においても手綱を緩めることなく、オンライン形式による研修の実施や「新しい生活様式」を踏まえた消防団活動基本方針の策定を行うなど、社会情勢の変化に的確に対応し、魅力ある消防団づくりに日々、尽力されています。

「住みたいまち・西宮の熱き消防団長」

西宮市消防団
和田　平雄

西宮市は、兵庫県の南東部、大阪市と神戸市のほぼ中間に位置しており、総面積一〇〇・一八平方キロメートルに及ぶ南北に長い市域は、北部の山地部と南部の平野部に分かれ、豊かな自然と交通の利便性、数多くの教育・文化施設など、文教住宅都市として優れた特性を有しています。

平成二〇年四月には中核市へと移行し、人口は四八万人を超えており、関西では「住みたいまち・西宮」として広く知られています。

西宮市の消防団は、一本部三三分団で構成されており、消防団長を務めているのは、和田平雄消防団長です。

和田団長は昭和五〇年に西宮市消防団に入団し、平成一三年に分団長、平成二一年に副団長となり、令和三年四月に消防団長に就任されました。

現在、西宮市消防団は新型コロナウイルス感染症の影響により、多くのことが制限された中で活動していますが、災害は時と場所を選びません。

火災だけではなく、自然災害の脅威はますます増加していますし、いつ南海トラフ地震が発生するかも分かりませんが、「自分たちのまちは、自分たちで守る」という理念の下、今後も市民のため、西宮市消防団を熱く引っ張っていきます。

がんばってます、女性消防団員

『播磨町消防団コロナ禍でもできる活動を！』

播磨町消防団女性分団

私たち播磨町消防団女性分団は、住民に対する火災予防指導や啓発、広報活動の充実と拡大を図るために平成一八年八月に結成されました。

結成当時は幼保低学年の母親中心の一〇名でしたが、現在は団員も増え一四名で活動しています。一五年目を迎え、新しい団員の確保がなかなか出来ず平均年齢の高齢化が悩みの種の一つです。そして、このコロナ禍で活動の中心である広報活動を自粛せざるを得ない状態でいます。しかしこの状況に甘んじて何もしないでいるのは勿体ないと前向きにこの限られた制約の中でできることを探して取り組んでいます。

そのひとつが「けすぞう新聞」の発行です。

けすぞうとは、私たち播磨町女性分団の啓発劇に登場して、大活躍するマスコット的なキャラクターです。

この新聞は播磨町のホームページで誰でもが読むことができます。リンク先（https://www.town.harima.lg.jp/kikikanri/bosai/shobo/shobodan/jyoseibundan/jyoseibundan.html）を載せておきますので、ぜひ一度ご覧ください。

毎月新聞担当の団員が一人で紙面を作り上げでき上がった紙面を団員全員で検討しています。この作業はリモートで行っています。

町・県のイベントや自治会などで披露して大人気を博していた啓発劇の活動もコロナ禍では全くできていません。この状況で私たちにできることが何かを考えました。防災の情報は年月を過ぎると変わっていることがあるのでこの機会に改める箇所をチェックし最新の情報を広報できるように話し合いました。

そして啓発劇にかわる新しい形態での演目の準備をするなど啓発劇の活動が再開できる日に備えています。

また、今年行われる予定でしたが、令和五年に延期された全国女性消防操法大会に兵庫県代表として出場の予定です。大会に備え、夜間練習などをしていましたが、コロナ禍で練習は全くできていません。

あと二年と迫った操法大会の準備には未知の世界なので気がかりはありますが、一つずつ解決して前進あるのみです。

これからも播磨町住民が安全・安心して暮らせるよう、私たち女性分団員が『明るく・無理なく・楽しくをモットーに』防火・防災啓発活動をより一層邁進していきたいと思います。

全国女性消防操法大会に向けて練習しています

編集後記

朝夕冷え込むようになり、冬はもう目の前ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。

今月号では、第一面に一一月五日に実施された、兵庫県津波一斉避難訓練の記事を掲載しております。

また、第二面には、九月末に消防学校を巣立った初任教育生の、査閲と卒業式の記事を掲載しております。半年間の訓練成果を披露した初任教育生の写真を、多数掲載しておりますのでご覧ください。

これからの時期は空気が乾燥し、また、暖房器具を使う機会が多くなることから、火災が非常に発生しやすくなります。火の取り扱いには十分ご注意ください。